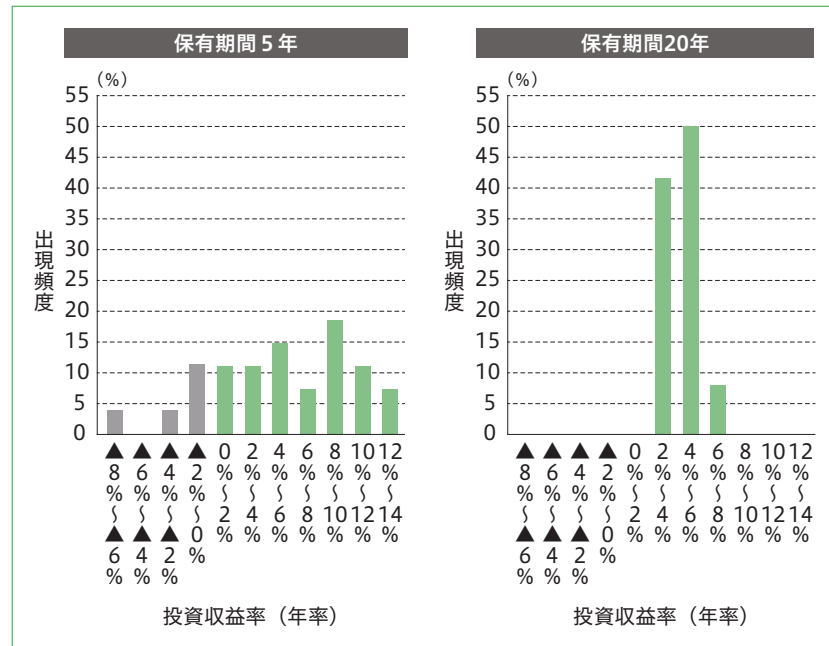




図表1 保有期間5年と保有期間20年の投資収益率の比較



(注) 1985年以降の各年に、毎月同額ずつ国内外の株式・債券の買付けを行ったもの。各年の買付け後、保有期間が経過した時点での時価をもとに運用結果及び年率を算出している。
(出所) 金融庁公表資料より抜粋

資産形成の基本!

長期・積立・分散投資の上手な説明方法

資産形成の基本となる「長期・積立・分散投資」。積立投信の購入を検討するお客様への分かりやすい説明方法を解説する。

内山貴博 内山FP総合事務所代表取締役

新

NISAとなったことで、その利便性が高まり、より多くの人によるNISAの利用が期待される。特に、投資未経験者が資産運用を始めるきっかけにもなるだろう。積極的にNISA口座の開設を案内したいところだが、その際に注意しておきたいのが投資の基本を意識することである。

長期投資は「のよこ」に説明する

現在のNISAにおいても、非課税であるがゆえに短期的な売買を繰り返すケースやリスクを取り過ぎるケースが見えられた。適切な判断ができなければ大きな損失につながるおそれもある。お客様それぞれのライフプランを確認し、投資を行ううえで重視すべき点を一つひとつ丁寧に説明したい。

つ

みたてNISAの非課税期間が20年とされたのも「20年程度の長期での積立が成果につながりやすい」ということが背景にある。表1はNISA関連の様々な資料で目にする金融庁作成のグラフである。この図表からも分かるように、一定の条件下で投資をし

相場が悪いときこそアドバイスが重要

このデータから長期投資をした場合、保有期間5年ではまだ含み損となっているケースがある。一方で、保有期間20年では損失を抱えているケースはなく、すべて含み益となっている。

前提にNISAを案内したい。ただし、長期投資の重要性を理解していても短期的な下落に耐えられず途中で売却する、または積立を継続しないといったケースも多い。相

場が悪いときこそ担当者のアドバイスが重要となる。例えば、サイコロを振って出る目の確率やコインの表裏の出る確率といった「大数の法則」を用いて説明するもの

1つだ。

サイコロの場合、2回や3回であれば連続して1が出ることもあるが、何千回、何万回と繰り返せば1の出る確率はおよそ6分の1となる。投資も1日や2日といった短期的な相場ではなく、数年単位で長く付き合えば、株式や債券など投資対象が本来有しているリターンが期待できることを強調できる。

の結果よりも1年間のペナントレースを制して優勝することを求めている。大相撲でも横綱が平幕力士に負けることがあるが、「金星」といわれるように頻繁にあるわけではない。千秋楽で優勝するのは横綱や大関のケースが圧倒的に多い。

または、お客様が好きなスポーツを例え話にするのも良いだろう。多くの人がテレビ等で見る機会のある野球やサッカー、大相撲などプロの競技が話しやすい。プロ野球の場合、1試合に限れば強いチームが弱いチームに大敗することもあるが、選手やファンはその試合だけ

加えて、当然ながら長期のほうが複利効果も期待できる。人生や資産運用はマラソンに例えられることも多いが、マラソンで完走するためには、シンプルに途中でリタイアしないことである。

ゴール後に達成感や充実感を味わうためには、長期的な視点で無理なく継続すること。厳しい局面こそ、お客様へ基本に立ち返る一言をかけてあげたい。

POINT

短期的な相場ではなく、長期であれば投資対象が本来持つリターンが期待できることを強調する。スポーツを例え話に説明することも有効

